

第8章 資本と利子 練習問題

1. 消費財と資本財（投資財）の具体例を挙げて、それぞれの違いを説明しなさい。
2. 直接生産と迂回生産の生産可能性曲線を図形で描き、限界変形率を図示しなさい。またそこから資本の限界収益率を導きなさい。さらに迂回生産のメリットを説明しなさい。
3. 現在消費と将来消費との無差別曲線を描き、限界時間選好率を図示しなさい。さらになぜ消費者は時間選好を持つか、説明しなさい。
4. 現在消費と将来消費との無差別曲線と生産可能性曲線を描き、資本の最適水準がどのような条件によって決まるか、説明しなさい。
5. 貯蓄がない場合の現在所得と将来所得の予算集合を図示し、最適な消費計画がどうか、無差別曲線で図解しながら説明しなさい。
6. 貯蓄がある場合の現在所得と将来所得の予算集合を図示し、貯蓄がない場合と比べて最適な消費計画がどう改善するか、無差別曲線で図解しながら説明しなさい。
7. 貯蓄した資金を利子率 i で金融市場で貸貸しできる場合、現在所得と将来所得の予算集合を図示し、貯蓄がある場合と比べて最適な消費計画がどう改善するか、無差別曲線で図解しながら説明しなさい。
8. 利子率 i で金融市場から貸借りできる場合、現在所得と将来所得の予算集合を図示し、貸借りがなく場合と比べて最適な消費計画がどう改善するか、無差別曲線で図解しながら説明しなさい。
9. 古典派の実物的利子論に基づいて、投資資金の需要曲線と供給曲線を導き、その均衡点で自然利子率が決定されることを、図解を用いて説明しなさい。
10. 利子率に関するフィッシャー方程式を数式で表し、実質利子率と名目利子率の関係を説明しなさい。
11. 貸付資金の需要曲線と供給曲線を図示し、その均衡点で貨幣利子率が決定されることを説明しなさい。また市場利子率が自然利子率に収束するプロセスを、ヴィクセルの累

積過程として説明しなさい。

12. ケインズの流動性選好説に基づいて、貨幣の需要と供給を数式を用いて説明し、その均衡点で利子率と所得が決まることを説明しなさい。
13. 現在価値法に基づいて、資本の価値の測定方法を説明しなさい。
14. 資本の成長経路について、定常状態と均斉成長との違いを説明しなさい。